

防災・エネルギー供給情報を地図と多言語で発信！ Lアラート高度化の実証実験を実施

テレ玉は、地域に密着した防災・エネルギー供給情報を届けるため、G空間情報(地理空間情報)を活用したLアラート(※災害情報共有システム)高度化事業の実証実験を行います。

これは総務省の委託事業としてテレ玉と埼玉県、川口市、所沢市、ライフライン事業者の武州ガス、東京ガス、日本ガス協会、東京電力が共同で行うもので、年内の実施を予定しています。

実証実験では、自治体職員が携帯可能なタブレット端末から防災情報を簡便に入力し、Lアラートへ送信することを可能とします。さらに、自治体が発信した避難勧告・指示情報や避難所情報がリアルタイムに地図で表現され、その情報を日本語だけでなく、多言語に自動で変換します。また、それらの防災情報に加えて、電力事業者の停電情報やガス事業者のガス供給情報をLアラートへ流通させ、防災・エネルギー供給情報をデータ放送及びWEBアプリにて表示します。

この取り組みにより、データ放送を活用して、地域に根差した情報をより迅速に、より多くの人へリアルタイムに配信できる仕組みの構築を目指します。

なお、この事業について、日本科学未来館(東京都江東区青海2丁目3-6)で11月26日(木)~28日(土)の3日間開催されるG空間EXPO2015にて、パネル展示いたします。

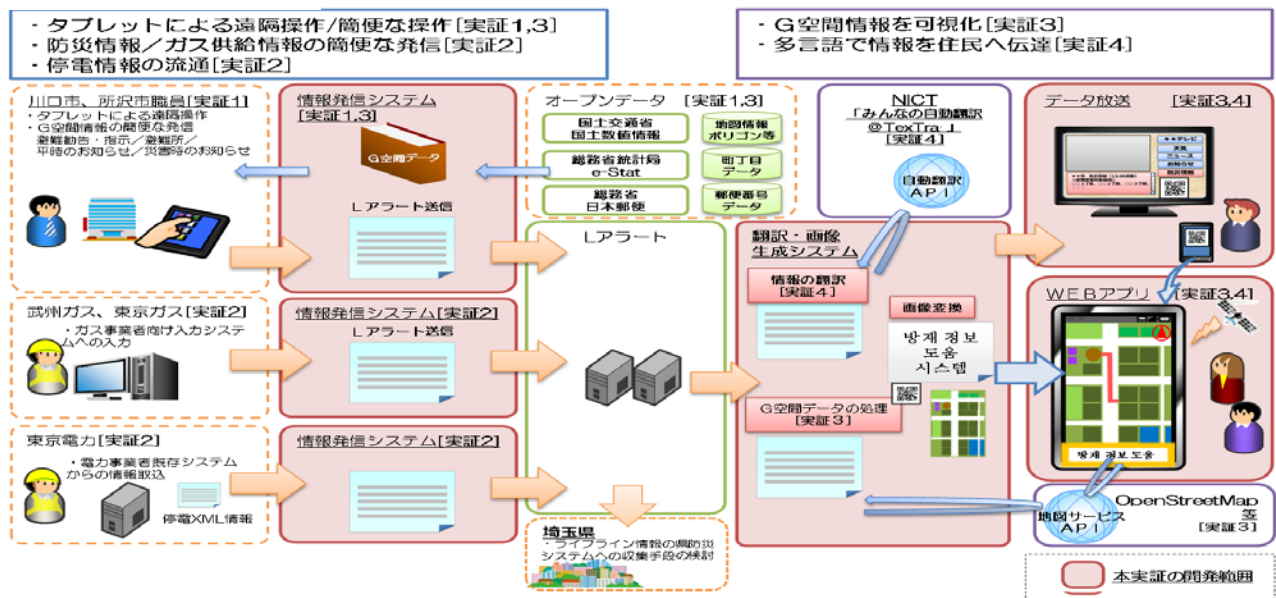
※Lアラートとは…総務省が推進する、自治体やエネルギー事業者が放送・通信事業者に効率的に安心・安全に関わる情報を伝達するための災害情報共有システム。

＜実証実験概要＞

**事業名：地域住民に対する防災情報とエネルギー供給情報を、
データ放送とWEBアプリを使って地図及び多言語で伝達する手法の実証**

実施地域：埼玉県川口市、所沢市 等

＜実証実験イメージ＞



実証実験期間：2015年11月~12月(予定)